

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-229816

(43)Date of publication of application : 22.08.2000

(51)Int.Cl.

A61K 7/02

(21)Application number : 11-029845

(71)Applicant : KANEBO LTD

(22)Date of filing : 08.02.1999

(72)Inventor : FUJISHITA MINA

## (54) NON-SOLID NON-AQUEOUS OILY COSMETIC

## (57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain the subject cosmetic giving luster when applied, not having stickiness, having good spread, adhesion, retention of the luster and storing stability, and excellent in moist touch and its retention, by compounding a fatty acid dextrin ester, a heavy-duty liquid isoparaffin and an oily component.

SOLUTION: The subject cosmetic is obtained by containing (A) a fatty acid dextrin ester (for example, palmitic acid dextrin ester) in an amount of, preferably, 2-25 wt.%, (B) a heavy-duty liquid isoparaffin in an amount of, preferably, 5-60 wt.%, and (C) an oily component being liquid at an ordinary temperature. The preparation is preferably obtained through a method which can effectively prevent the preparation from gelling or destroy the gelation. The component B has preferably an average molecular weight of 700-1,400. A compound, or a combination of two or more compounds, selected from a liquid paraffin, squalane or the like is used as the component C, and a formulation amount is, preferably, 20-70 wt.%. A colorant such as a pigment and a dyestuff, a thickening agent, a cosmetic component, an antiseptic agent or the like can be formulated to the cosmetic.

## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 22.12.2005

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2000-229816  
(P2000-229816A)

(43) 公開日 平成12年8月22日 (2000.8.22)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

A 6 1 K 7/02

識別記号

F I

A 6 1 K 7/02

テームコード\* (参考)

4 C 0 8 3

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平11-29845

(22) 出願日 平成11年2月8日 (1999.2.8)

(71) 出願人 000000952

鐘紡株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72) 発明者 藤下 実奈

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘  
紡株式会社化粧品研究所内

Fターム (参考) 4C083 AA122 AC021 AC022 AC072

AC082 AC352 AD152 AD241

AD242 BB11 CC01 CC13

DD22 DD23 DD28 DD30 DD41

EE06 EE07 FF01

(54) 【発明の名称】 非固形非水系油性化粧料

(57) 【要約】

【課題】 透明性があり、ベタツキがなく、塗布時の艶を付与し、のび、つき、艶の持続性、保存安定性が良好であり、塗布時のしっとり感及びその持続性に優れる非固形非水系油性化粧料を提供する。

【解決手段】 デキストリン脂肪酸エステルと、重質流動イソパラフィンと、常温で液状の油性成分とを含有する非固形非水系油性化粧料

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 デキストリン脂肪酸エステルと、重質流動イソパラフィンと、常温で液状の油性成分とを含有する非固形非水系油性化粧料。

【請求項2】 デキストリン脂肪酸エステル2～25重量%と、重質流動イソパラフィン5～60重量%と、常温で液状の油性成分とを含有する非固形非水系油性化粧料。

【請求項3】 ゲル化防止又はゲル破壊を奏する手段によって得られる請求項1又は2記載の非固形非水系油性化粧料。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、非固形油性化粧料に関し、詳しくはベタツキがなく、透明性に優れ、塗布時の艶を付与し、のび、つき、艶の持続性、保存安定性が良好であり、塗布時のしっとり感及びその持続性に優れた非固形油性化粧料に関する。

## 【0002】

【従来の技術】油性化粧料は、キャンデリラロウ等の固体脂、炭化水素等の液状油等に必要に応じ顔料等を配合したものであり、皮膚に対する親和性等より、主として口紅、アイシャドウ、アイライナー及び油性ファンデーション等のメイクアップ用製品に多用されている。そして剤形としては固形、液状、ペースト状、乳液状等種々のものがある。化粧効果、のび、つき等の官能特性及び保存安定性が良好であることが求められているが、近年、更に艶、しっとり感や透明性（透明感）をも求められるようになってきている。

【0003】透明感のある固形化粧料としては、特公昭45-41318号公報、特公昭52-7067号公報、特開昭63-119405号公報、特開平2-264707号公報等があるが、固形化粧料特有の、のびにくい、光沢やなめらかな感触を付与しがたいという問題を持っている。また、透明性、べたつき、つき、しっとり感、保存安定性等の面で満足できるものではない。

【0004】これらの課題を解決する手段として、特開平9-235210号公報には重質流動イソパラフィンと液状油とを含有し、デキストリン脂肪酸エステルにより固体状とした固形化粧料が示されている。しかしながら、固形化粧料であるためかしっとり感やしっとり感の持続の面で不満が残り、また固形状のため筆ペン型容器やチューブ容器に充填して供することができない問題があった。

【0005】液状の非固形化粧料としては、特開昭63-165303号公報記載のデキストリン脂肪酸エステル、水素添加ポリブテン、マルチツール、液状油性物質及び水を含有する液状乳化型の唇用化粧料等がある。保存安定性が良く、伸びが良く、なめらかな感触としっとりとした感触、光沢を付与し、にじみ、よれ、動きがな

く、唇に良く密着し化粧くずれしにくく唇の荒れ防止に効果があり保水性も良好であるとされている。しかしながら、透明感、唇に塗布した後の艶及びしっとり感の持続性は不十分である。また、水を含有するため低温安定性に問題がある場合があり界面活性剤の併用が実質必要とされる場合が多々あった。そのため人により界面活性剤による刺激が問題となる場合があった。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】係る状況下、本発明の目的とするところは、塗布時の艶を付与し、ベタツキがなく、のび、つき、艶の持続性、保存安定性が良好であり、塗布時のしっとり感及びその持続性に優れた非固形非水系油性化粧料を提供するにある。また、透明性が求められるものにあつては更に、優れた透明性を持つ非固形非水系油性化粧料を提供するにある。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】上記課題は、デキストリン脂肪酸エステルと、重質流動イソパラフィンと、常温で液状の油性成分とを含有する非固形非水系油性化粧料によって達成される。

## 【0008】

【発明の実施の形態】以下、発明の実施の形態に関して本発明を詳説する。

【0009】本発明において、非固形非水系油性化粧料とは、常温において非固体状をなしいくらかの流動性を有し、実質的に水を含まない油性化粧料を指す。

【0010】本発明の係るデキストリン脂肪酸エステルは、デンプンの加水分解物であるデキストリンと高級脂肪酸とのエステル化合物であり液状油のゲル化剤として良く知られている。それらの中で安定性等の面よりパルミチン酸デキストリンが好ましい。デキストリンとしては平均重合度10～50の物で、高級脂肪酸が炭素数12～22の物が好ましく、脂肪酸の置換度はデキストリンのグルコース単位当り1.0以上の物が好ましい。デキストリン脂肪酸エステルは容易に入手可能であり、例えば、千葉製粉社よりレオパールKE、レオパールKLとして市販されている。

【0011】上記デキストリン脂肪酸エステルの配合量は、組み合わせる常温で液状の油性成分の種類等によって適宜変るものであるが、一般には非固形非水系油性化粧料全量に対し2～25重量%が好ましく、更に好ましくは5～15重量%である。2重量%未満では本発明の効果を奏さない場合があり、25重量%を越えて配合すると使用感が損なわれる場合がある。

【0012】本発明に係る重質流動イソパラフィンは、別名水素添加ポリブテンとも呼ばれる、イソブテンとn-ブテンとを共重合した後、水素添加して得られる側鎖を有する炭化水素の混合物であり、皮膚刺激がなく、安全性、安定性に優れる。平均分子量は、500～2800程度のものが好ましく、更に好ましくは700～14

00のものである。平均分子量500未満では安定性が悪い場合があり、2800を越えると粘性が高くなりすぎ使用感等で問題を起こす場合がある。

【0013】重質流動イソパラフィン、組み合わせる液状油の種類、目的とする非固形非水系油性化粧料の種類や性質等によって適宜変るものであるが、一般には非固形非水系油性化粧料全量に対し5~60重量%配合されるのが好ましく、更に好ましくは10~50重量%である。5重量%未満では安定性に問題がある場合があり、60重量%を越えて配合すると使用感が損なわれる場合があり好ましくない。

【0014】本発明に係る常温で液状の油性成分は、特に限定されるものではなく、化粧品、医薬部外品又は医薬品等に用いられる物であれば何ら問題なく使用できる。例えば、流動パラフィン、スクワラン等の炭化水素類、液状の合成エステル油類（例えば、トリカプリル・カプリン酸グリセリン、ミリスチン酸オクチルドデシル、イソプロピルミリステート、2-エチルヘキサン酸トリグリセライド、ヒドロキシステアリン酸2-エチルヘキシル、セチルイソオクタノエート等）、植物油（例えば、オリーブ油、マカデミアナッツ油、ゴマ油、サフラワー油、ホホバ油、大豆油、ツバキ油等）、液状高級アルコール（例えば、オクチルドデカノール、オレイルアルコール、イソステアリアルアルコール等）、液状高級脂肪酸（例えば、イソステアリン酸、リノール酸等）、シリコン油（例えば、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン等）一種又は二種以上を適宜組み合わせ用いることができる。これらの中でシリコン油は相溶性等の面より好ましくない場合があり、他の油性成分が好ましい。これら液体の油性原料の配合量は、目的により適宜決定すればよいが、通常15~90重量%、好ましくは20~70重量%である。15重量%未満では使用感が良くない場合があり、90重量%を越えて配合するとべたつき等が生じたりして使用感が損なわれる場合があり好ましくない。

【0015】本発明に係る非固形非水系油性化粧料は、従来技術の特開平9-235210号公報記載の固形化粧料においてゲル化剤であるデキストリン脂肪酸エステルの配合量を単に減じたのみでは経時的に油性成分のしみ出し等が起こる場合があり好ましくない。好ましくは、該化粧料調製時にゲル化を防止する手段又は調製されたゲルを破壊する手段を併用し、最終製品において固体状をならないようにすることが好ましい。すなわちデキストリン脂肪酸エステルと、重質流動イソパラフィンと、常温で液状の油性成分とを含有しながらも非固形かつ非水系の油性化粧料であらねばならない。

【0016】ゲル化を防止する手段としては、非固形非水系油性化粧料の調製時に、デキストリン脂肪酸エステルが完全溶解するに必要な温度まで昇温させないで行うこと、剪断力をかけながら行うこと、脱泡工程を省略し

て（溶存空気存在下で）行うこと、超音波等をかけてミクロ的な細動下又はキャビテーションを起こさせながら行うこと等の公知の手段を用いることができる。

【0017】調製されたゲルを破壊する手段としては、調製されたゲルに更に剪断力をかける方法等の公知の手段を用いることができる。

【0018】本発明に係る非固形非水系油性化粧料には、本発明の効果を損なわない範囲で、顔料や色素等の着色剤、増粘剤、美容成分、防腐剤、紫外線吸収剤、香料、酸化防止剤等を配合してもよい。

【0019】

【実施例】以下、実施例に基づいて本発明を更に詳説する。尚、本発明は以下の実施例に何ら限定されるものではない。まず評価方法について述べる。

【0020】・透明性試験

透明ガラス製シャーレに5mm厚となるように試料を流し込み一昼夜放置した。その後JIS5400の隠蔽率試験紙の白黒の境界線上に置き、真上より試料を通して境界線の見え具合を下記の評価基準で評価した。

（評価基準）

境界ラインが明確に見える	3
境界ラインが少しぼやける	2
境界ラインが透けて見える	1
境界ラインが見えない	0

【0021】パネラー5名にて評価しその平均点を、下記基準で判定し透明性試験結果とした。

（判定基準）

2.5以上	◎
1.5以上2.5未満	○
0.5以上1.5未満	△
0.5未満	×

【0022】・保存安定性試験

0℃、45℃の各恒温槽に2ヶ月間保管した後、外観（油分のにじみ、ひび割れ、艶の消失等）、粘度の変化、色調の変化、匂いの変化、使用感の変化について製造直後のものと下記の基準で判定した。

（判定基準）

変化がない	○
変化が見られる	×

【0023】・官能試験

パネラー20名に使用してもらい、ベタツキのなさ、のび、つき、艶、艶の持続性、しっとり感、しっとり感の持続性について下記の評価基準にて評価し、平均点を判定基準にて判定し評価結果とした。尚、持続性は塗布後3時間経過後にて評価した。

（評価基準）

非常に良い	3
良い又は普通	2
悪い	1

（判定基準）

平均点2.5以上 ◎  
 平均点1.5以上2.5未満 ○  
 平均点1.5未満 ×

【0024】実施例1～7、比較例1～3

下記表1に示す処方のリップグロスを常法により調製した。但し、実施例1～6のリップグロスは、成分の混合調製時から冷却に至るまでホモジナイザーにて剪断力を\*

\*かけながら得た。実施例7はホモジナイザーを用いず、通常行う加熱混合後の減圧脱泡工程を省略して得た。比較例は全て通常の加熱混合脱泡工程を経て調製した。尚、表1に示す数字は重量%である。

【0025】

【表1】

	実施例							比較例		
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3
パルミチン酸デキストリン	2	10	10	15	22		10		20	10
ステアリン酸デキストリン						10				
重質流動イソパラフィン 平均分子量1000	50	40		25	60	40	40	50		45
重質流動イソパラフィン 平均分子量2650			40							
スクワラン	43	5	15	5	3	10	5	30	30	
イソプロピルミリスレート			35		15				35	20
ホホバ油	5					35		10	10	10
オレイルアルコール				10		5			5	5
オクチルドデカノール		10					10			
ヒドロキシステアリン酸 2-エチルヘキシル		35		25			35			
メチルフェニルポリシロキサン				20				10		
精製水										5
透明性試験	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	△	△	△
保存安定性試験	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○
官能試験										
べたつきのなさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	○	○
のび	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	×	○	◎
つき	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
艶	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	×	○
艶の持続性	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	×	×
しっとり感	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
しっとり感の持続性	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	×

【0026】

【発明の効果】上述したように本発明は、塗布時の艶を付与し、べたつきがなく、のび、つき、艶の持続性、保存安定性が良好であり、塗布時のしっとり感及びその持続性に優れる非固形非水系油性化粧料を提供することは明らかである。また、透明性が求められるものにおいて

30 は更に、優れた透明性を持つ非固形非水系油性化粧料を提供することができる。また、非固形状であるため筆ペン型容器やチューブ容器に充填して供することができる。そして水を含まないため界面活性剤を併用する必要がなく安全性の高い非固形非水系油性化粧料を提供できる。